

第3回
沼津港振興基本計画策定委員会

平成27年2月17日
静岡県

スケジュール

平成26年度						平成27年度					
10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	<p>◆第1回 有識者会議 (11/26)</p> <p>○基本理念・目指す姿の提示</p>	<p>◆第1回 策定委員会 (12/1)</p> <p>○基本理念・目指す姿の確認</p>		<p>◆第2回 策定委員会 (1/14)</p> <p>○地元意見聴取</p> <p>○目指す姿(案)の整理</p>							
				<p>◆第2回 有識者会議 (2/5)</p> <p>○目指す姿の確定</p>							
					<p>◆第3回 策定委員会 (2/17)</p> <p>○具体的方策検討に向けての整理</p>						
					<p>◆第4回 策定委員会</p> <p>○具体的方策の検討</p>						
					<p>← 市民意見募集 →</p>						
									<p>◆第3回 有識者会議</p> <p>○策定委員会から報告</p> <p>○将来像と具体的方策の確定</p>		

- ◆有識者会議
- ◆策定委員会

※会議回数は必要に応じて増減する場合あり。

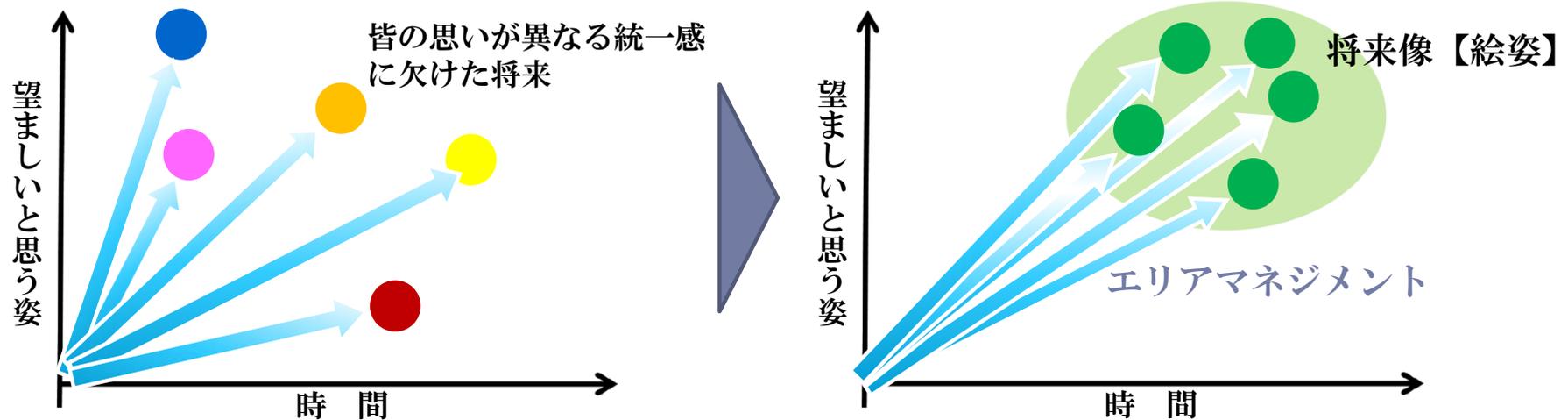
沼津港新ビジョン策定の目的

静岡県は沼津市と協議の上、平成14年3月に「沼津港港湾振興ビジョン」を策定した。

このビジョンに基づき、港湾管理者である県による航路水門「びゅうお」や、民間事業者による水産複合施設「イーノ」、マーケットモール「新鮮館」が整備され、周辺地区には水族館を併設する飲食店モール等の整備が進み、年間145万人以上の来訪者が訪れる他港にはない賑わいが生まれてきた。

今後、沼津港の“ここにしかない魅力”を高め、「住んで良し、訪れて良し」のみなとまちづくりを進めていくためには、個々の事業者による単体の魅力向上を図るのでは限界が有り、また、個々の事業者が目指す方向が異なると魅力を相殺してしまう恐れが有るので、沼津港とその周辺地域を一体として捉え、様々な利害を有する複数の事業者が一つの組織として、共通の理念・目指す将来像の実現に向けて取り組む「エリアマネジメント」が必要となる。

沼津港新ビジョンは、この考え方に立ち、先ず、沼津港の果たす役割（基本理念）を明らかにし、10年後・20年後の沼津港の目指す「将来像」を定めることで、沼津港に関わる全ての人々がこれを共有するものとする。そして、この将来像を実現するために、各事業主体が担う方策を明らかにするとともに、各事業主体が連携して戦略的な取り組みを行うための組織を提示する。



【沼津港の果たす役割】

沼津港が公共空間として長期に亘り魅力を発揮し、地域の人々が憩うとともに、働き甲斐のある場所として、沼津市はもとより県東部・伊豆地域の活力の源となっている。



10年後
20年後

将来像(目指す姿)

- ここにしかない沼津港の魅力（「食」、「港町・市場」、「景観」）が日々高められている。
- ここで働く人々が笑顔で活気に溢れている。
- 地域住民が愛し、憩う場となり、その良さを訪れる多くの人々が共有している。
- 港の活力が中心市街地、県東部地域、伊豆地域へと波及している。

キャッチコピー

(検討中)

将来像を実現するための方針

将来像

- ここにしかない沼津港の魅力（「食」、「港町・市場」、「景観」）が日々高められている。
- ここで働く人々が笑顔で活気に溢れている。
- 地域住民が愛し、憩う場となり、その良さを訪れる多くの人々が共有している。
- 港の活力が中心市街地、県東部地域、伊豆地域へと波及している。

将来像を実現するための方針

魅力の向上と新たな魅力の創出により来訪者へ多様な楽しみを提供する。

- 例
- ・ 駿河湾の豊富な海産物を駆使した沼津独自の本物志向・健康志向の食文化を体験できる場とする
 - ・ 海産物に加えて地場の良質な食材（野菜・肉等）を活かした世界各地の料理等、多様な食文化を味わい学べる場とする
 - ・ 歴史ある漁港の核となる市場を維持し、市場で活躍する人たちが醸し出す風景を将来に亘り確保する
 - ・ 沼津港をとりまく優れた自然景観を借景に、自然と調和した統一感のある景観を形成するとともに、多数のビューポイントを築く

活力あふれる働きがいのある港にする。

- 例
- ・ 現在の市場・飲食店街等の賑わい、活力の維持・発展を図る
 - ・ 港で生業を営む人々が様々な活動を企画し、実行できる場と機会を創出する
 - ・ 関係する多様な業種が交流できる場を設け、アイデアを持ち寄り連携して取り組む仕組みを用意する

地域の「庭」として住民の生活に溶け込ませる。

- 例
- ・ 地域の人々が楽しみを見出し、居心地の良さを感じる仕組みを展開する
 - ・ 地域の人々が港に集い、交流し、活動できる場と機会を創出する

沼津市、伊豆地域、県東部地域の「玄関口」として、訪れた人を迎え入れ、周辺地域へいざなう仕組みを充実させる。

- 例
- ・ 陸上交通、海上交通の結節点としての機能を充実させる
 - ・ 周辺地域の魅力を結び付け、沼津港と周辺地域との周遊性を確保する
 - ・ 来訪者を迎え入れ、港内や周辺地域へいざなうコンシェルジュ機能の充実を図る

誰もが安全・安心に利用できる港にする。

- 例
- ・ 物流機能は外港に集約し、観光利用との混在を解消する
 - ・ 安全な歩行者動線を確保する
 - ・ 地震・津波対策をより充実させる

1. 重視すべき視点

●風景を楽しむ

- 例
- 統一的な指針を設け、借景を利用した景観設計を行う
 - みんなの手で景観を守る体制を構築する
 - 清掃活動等、清潔感を保つための協力体制を構築する

●食文化を学び楽しむ

- 例
- 沼津港独自の食文化を際立たせ、協力してPRする体制を構築する
 - 地域の農畜水産業を結び付け、沼津港で活動する場を設ける
 - 沼津の食材を世界の食文化につなげる仕組みを構築する

●自然・歴史を学ぶ

- 例
- 学ぶべき情報を集約・提供する体制を構築する
 - 沼津港周辺の自然・歴史を、現地で感じ学べる仕組みを構築する

2. 引き出すべき力

●「場の力」「人の力」を最大限に活用する

- 例
- 沼津港の持つ「場の力」を見極め、最大限に活用する
 - 「人の力」を発掘し、結びつける仕組みを構築する

エリアマネジメントの導入

●目標実現に向けた組織体制の構築

具体的方策の検討に向けた整理

現在の沼津港の魅力を作り出している「場の力」と、
それを活用して魅力を高めている「人の力」を整理した。

景観

借景（背景）となる景観

富士山の景観

千本松原の景観

沼津アルプスの景観

狩野川の景観

愛鷹山の景観

伊豆西海岸の景観

駿河湾の景観

沼津港の風景（動きのある景観）

船（漁船以外）のある風景

漁船のある風景

漁港らしい風景（市場+漁船）

市場施設のある風景

市場の営みを感じる風景

食堂街が賑わう風景

びゅうおのある風景

びゅうおから眺める風景

朝日・夕日に映える景観

船上からの景観

ライトアップされた夜景

その他重要な景観

水面に映える景観

沼津港の有する「場の力」「人の力」

（現状）

漁港として培った歴史

市場の活気

県東部随一の水産流通拠点

最新鋭の市場（高度衛生管理）

せり場を見通せる市場

港町市場

利用のしやすさ

首都圏との近接性

伊豆地域との近接性

陸上交通アクセスの整備

箱根との近接性

海上交通アクセスの存在

富士山との近接性

沼津駅との近接性

駿河湾との近接性

中心市街地との連続性

隣接する狩野川

一周まわれる内港

食

沼津港で水揚げされる多様な海産物

全国から市場に集まる多様な海産物

駿河湾ならではの深海魚

日本一の生産量を誇るあじの干物

沼津港の新鮮・豊富な海産物（食材）

食の拠点としてのブランド力

地場の食材を使った食事（寿司・和食）

おいしい料理

「場の力」を活かす「人の力」

「沼津港BAR」や「水産祭」等のイベント企画力

沼津港に導く観光ガイド

食材を活かす料理人

港を活用するホテル旅館組合などの観光業者

魅力の情報発信力

ブランド開発能力

港の活気を支える漁業者や市場関係者

沼津港や街中を舞台に活躍する若い力

現在において十分活用されており、今後更に高めていくことが望まれる力を「**更に高める力**」、潜在的にあるものの、十分活用しきれていない力、新しく追加すべき力を「**補うべき力**」と整理した。

景観

借景（背景）となる景観

富士山の景観

千本松原の景観

沼津アルプスの景観

狩野川の景観

愛鷹山の景観

伊豆西海岸の景観

駿河湾の景観

沼津港の風景（動きのある景観）

船（漁船以外）のある風景

漁船のある風景

漁港らしい風景（市場+漁船）

市場施設のある風景

市場の営みを感じる風景

食堂街が賑わう風景

びゅうおのある風景

びゅうおから眺める風景

朝日・夕日に映える景観

船上からの景観

ライトアップされた夜景

その他重要な景観

水面に映える景観

凡例

更に高める力

補うべき力

漁港として培った歴史

市場の活気

県東部随一の水産流通拠点

最新鋭の市場（高度衛生管理）

せりを見学できる市場

港町市場

注)「補うべき力」= 潜在的に持っているが活かしきれていない力 + 新たに追加すべき力

利用のしやすさ

首都圏との近接性

伊豆地域との近接性

陸上交通アクセスの整備

箱根との近接性

海上の交通アクセスの存在

富士山との近接性

玄関の機能

沼津駅との近接性

駿河湾との近接性

中心市街地との連続性

隣接する狩野川

一周まわれる内港

食

沼津の食材

伊豆の食材

県東部の食材

静岡県の優れた食材

沼津港で水揚げされる多様な海産物

全国から市場に集まる多様な海産物

駿河湾ならではの深海魚

日本一の生産量を誇るあじの干物

沼津港の新鮮・豊富な海産物（食材）

食の拠点としてのブランド力

地場の食材を使った食事（寿司・和食）

リーズナブルな食事

おいしい料理

食材を活かした多様な食事（フレンチ・イタリアン・中華等）

「場の力」を活かす「人の力」

「沼津港BAR」や「水産祭」等のイベント企画力

沼津港に導く観光ガイド

食材を活かす料理人

港を活用するホテル旅館組合などの観光業者

魅力の情報発信力

ブランド開発能力

港の活気を支える漁業者や市場関係者

沼津港や街中を舞台に活躍する若い力

商店街のおもてなしの力

コンシェルジュ

地元の人や来訪者の交流を作り出す企画力

魅力を最大化する「場」の設定

～整合性・一体性・連続性を考慮した「場」の在り方を検討～

手順3で整理した「場の力」「人の力」を、
現地平面図に張り付け、
場の力が強い所、弱い所がどこかを見出す。

場の力の配置 (その1)

凡例

- 更に高めるべき力
- 補うべき力
- 人の力



- ・「**更に高めるべき力**」が多い所は、現在においても十分な「力」を有しており、今後、その力による魅力を更に高めていく。
- ・「**補うべき力**」が多い所は、十分に場の力を活かしきれていない。
- ・西物揚場背後は空白地。「場の力」が特に弱く、新たな力を展開する必要がある。

場の力の配置 (その2)



